

善養寺便り

第三号

平成二十六年十一月号

発行 善養寺

十一月のことば

「当たり前前と思っていたことが
有り難いと気づかされる」

(撫尾巨津子)

私たちは、自分ではわかっていると思いつつも、当たり前前の日常にどれほど日々感謝して生きていくのでしょうか。常に、自分中心の考え方にとらわれ、物事がうまくいかないと愚痴をこぼします。あるがままを受け止め、人生の刻一刻がかえがえのないものであることを自覚することがお念仏の生活と言えましょう。

◆二十六年「報恩講」法要を

お勤めしました

十一月一日、二日と、本年度の「報恩講」をお勤めしました。「報恩講」は浄土真宗のお寺ならば全国どこでも必ずお勤めする大切な法要です。浄土真宗を開かれた親鸞聖人のご命日に合わせて、聖人のご遺徳に報恩感謝する法要です。

今年も雨日とも雨天の予報で、特に一日目は午前中が少し雨が降ったせいか、例年に比べお参りが少なかつたように思いました。もともと多くの方にお参りに来ていただきたいと思えます。今年のご講師は、加古川組の鹿多証道先生でした。鹿多先生は住



11月1日のお齋スタッフ
南八代町と八代東光寺町と役員の皆さん
※1日しか撮影できませんでた。
ご了承ください。



「お齋」
ひろろ、大根の炊き合わせ、
白和え、さわらの焼魚、しいたけ、
かまぼこ、だし巻き玉子、
さやえんどう、
そしてご飯とかす汁です。
南八代町、東光寺町の皆様
本当にありがとうございます。

職の傍ら長年高校野球の審判をなさり、また音楽にも造詣の深いというユニークな先生です。

今回のご法話では、先生自身が雨にちなんだ歌や、野口雨情のシャボン玉の歌などお歌いになりながら、楽しく法話をしてくださいました。法話の中で、童謡には命の尊さが歌われており、そこには浄土真宗のおみのりに通ずるものがあるというお話が印象に残りました。ご聴聞された皆さんから「とても楽しく、またありがとうございました。」という感想をいただきました。



〈報恩講次第〉

十一月一日(土) お齋(昼食) 午前十一時半〜

二日(日) 日中法要、ご法話 午後一時〜

晨朝法要、ご法話 午前十時半〜

お齋(昼食) 午後一時〜

日中法要、ご法話 午後一時〜

★報恩講「お齋(とき)」メニュー

善養寺では、毎年八代の各町の婦人会の方々によるお齋をお出ししています。(多くの方に前日の準備から一、二日の両日の三日間もご奉仕していただきました。)毎年、大変おもしろく好評です。今年も本当においしいお齋でした。来年もたくさんの方に召し上がっていただきたいです。



仏様にお供えするお餅を積んでいます。左が、積み上がったお餅をお供えした御本尊です。

善養寺では、仏様にはお餅等五穀の作物から作った物をお飾りとしてお供えしています。ところで、写真はありませんが、本堂は御本尊の阿彌陀様の右奥に親鸞様、左奥に蓮如様のお厨子があります。ご家庭でご絵像の仏壇なら同じ配置になっています。





仏婦コーラス

- 1 「真宗宗歌」 2 「しんらんさま」
- 3 「紅葉」
- 4 沖縄ソング「童神」

「天からの恵み 受けてこの地球に
 生まれたる我が子 祈り込め育て
 イラヨーホイ イタヨーホイ
 イラヨー 悲しうみなしくあ…」

十二月、新年の行事

十二月三日（水）午後一時半より

「第四回 仏教婦人会仏教講演会」 ご講師 谷川弘顕先生

「第四回講演会」は、今年度最後の谷川先生のご法話です。これまでお話しされてきた「正信偈」講義の最終回です。後の「正信偈」入門2をお読みください。



◆過去帳に見るヒストリー・オブ・善養寺

前回から、当坊過去帳から当坊の歴史をひも解くこととなりました。過去帳ですので名前と忌日以外の記載はわずかですが、そこからも先達の様々な苦勞が忍ばれます。

善養寺開基 国林釋院園慶法師（延寶三年 一六七五年没）

※延寶八年、將軍綱吉

二世住職 常雲院釋淨慶法師（元禄四年 一六九一年没）

坊守 ナカ（栗賀藩？田中家出身）

三世住職 養谷院釋慶存法師（元文三年 一七三八年没）

坊守 ツマ？（飾西郡庄村出身）

※三世の年齢は不詳ですが、二世との間を引き算すると五〇年余り住職をお勤めなされたこととなります。

この時代に、祖師、太子、七高僧の各御像を迎え、また御本尊修復とあります。

四世住職 光照院釋惠須法師（享保元年 一七一六年没）

坊守 カツ（神東郡の寺院出身）

※享保元年、將軍吉宗

五世住職 慶應院釋祐證法師（寛保元年 一七四一没）

坊守 サワ（神西郡（福崎？）西谷村順教寺出身）

現在の福崎町西治の順教寺でしょうか？

六世住職 龍谷院釋慶存法師（享保十三年 一七二八没）

坊守 ワキ（河内の庄？ 出身）

「右住職本堂建立之人也」の記述あり。この住職の時代に新しく本堂が建立されたものと思われます。なお、五世と六世の住職の年号は誤記かもしれません。

十二月二十一日（日）午前十時～十一時

「納骨堂一斉大掃除」（納骨堂所有の方対象）

年末ですので、それぞれのご自分の家の納骨壇の掃除をいっしょにしませんか。任意参加ですので都合のつく方はどうぞお越しくください。

一月一日（木）午前九時～十時頃

「元旦会」

毎年一月一日九時から勤めています。皆さんと「正信偈」をお勤めし、年賀のあいさつをします。

新年は善養寺へのお参りからスタートしてください。

◆講演会のための「正信偈」入門2

十二月の正信偈のお話は、おそらく「源空上人」のお話から始めると思います。

源空上人とは、浄土宗の開祖法然上人のことです。親鸞聖人は最初比叡山の学僧でしたが、二十九才の時比叡山を下り、京都六角堂に百日間籠もります。その時、夢に聖徳太子が現れ、吉水の法然上人を訪ねるように聖人に告げたと言われます。その夢のとおり親鸞聖人はその後百日間、吉水の法然上人の草庵を訪ねたのです。

それ以後、親鸞聖人は法然上人を浄土真宗の本当の祖師と仰ぐのです。「正信偈」の「本師源空明佛教・・・真宗教證興片州」とは、「源空上人が佛教を明らかにされて（中略）浄土真宗をこの島国日本に興された。」という意味です。

やがて親鸞聖人は、法然上人が著された「選択本願念仏集」の書写を許され、親鸞聖人も念仏の道を歩まれることになったのです。

◆ニュースなど

◎当寺佛教婦人会会長の龍本澄子さんが、姫路中組全体の門徒推進委員会の会長に就任されました。姫路中組の門徒推進運動の中心として今後活動なさいます。善養寺としても、バックアップしてゆきたいと思えます。

◎住職補任式に出席しました。

去る十月八日に本願寺におきまして「住職補任式」があり、四人の総代さんとともに出席しました。補任式とは、本山から正式に住職として認可される式です。

御門主様より、本願寺派住職として時代の激しい変化に対応できるような危機感を持って精一杯頑張ってほしい、というお話がありました。



坪田一良さん

坪田全純さん

住職

河野哲夫さん

黒田三芳さん

本願寺にて